山江村議会だより

まるおか

No.93

球磨郡民体育祭≪卓 球≫（7月7日）

目　次

○第４回定例会 ・・・・・・・・・・・・・・ P2
○一般質問 ・・・・・・・・・・・・・・ P3～7
○令和７年度主軸事業要望及び行政視察・・・ P8
○編集後記「だんだんなあ」・・・・・・ P8

令和６年７月31日発行　発行：山江村議会　編集：広報編集特別委員会

熊本県球磨郡山江村大字山田甲1356-1　☎(0966)23-3401　FAX(0966)24-5669　山江村域内電話☎23-3401

令和６年第４回　山江村議会定例会

令和６年６月１２日から１４日までの３日間、第４回定例会を開催し、繰越明許費などの報告４件、発委１件、令和５年度補正予算の専決承認等７件、条例改正５件、契約締結等２件、令和６年度補正予算１件の合計２０件を可決しました。令和６年度一般会計補正予算は１億６千４百７０万２千円の追加となりました。

◆ 令和６年度山江村一般会計補正予算（第１号）

質疑	答弁
横谷議員 １．石蔵拠点整備事業費の公有財産購入について、平米あたりの単価の根拠は	総務課長 １．財産審議会において、過去の売買実績を参考に平米あたり１万円以下。立木については、令和６年度損失補償算定標準書に準ずる単価以下とすることの答申を受け、それぞれ予算計上を行った。
２．この拠点整備をするにあたり、今後の考えは	村　　長 ２．石蔵を使った文化遺産活用を当初検討していたが、総事業費が多額となるため、村をあげて、産業・福祉・教育を含めた賑わいづくりとしての施設を計画した経緯である。今後は山江未来づくり協議会において、拠点整備の在り方等を協議し、村あげての事業として取り組んでいく。
白川議員 １．丸岡公園整備費の仮設住宅利活用事業工事請負費について、仮設住宅２棟の再利用ということだが、上下水道の整備、特に下水処理は既存の処理で賄えるのか。	企画調整課長 １．下水浄化槽について、既存施設に接続可能かどうか現在調査中である。接続不可の場合は新たに設置する必要がある。
２．残りの仮設住宅の利活用については何か考えがあるのか。	健康福祉課長 ２．残りの仮設住宅２３戸についての利活用はしない。
３．解体撤去はいつごろか。また撤去後のグラウンドはいつから使用可能か。	３．解体については、現在県と早くて７月末手続きを済ませる予定、８月中旬解体工事着工、予定では１月中旬からグラウンドが使用可能と考えている。

令和６年度町村議会常任委員長・議会運営委員長研修

令和６年７月２３日、役場大会議室を会場として熊本県町村議会議長会が主催する「令和６年度町村議会常任委員長・議会運営委員長研修」がオンラインで開催されました。

講師を明治大学農学部教授 小田切 徳美 氏による「人口減少問題への対応策」を演題として講演がありました。

※一般質問の内容は質問した議員の責任により議員の原稿のまま掲載しています

赤坂　修 議員

■ 給付型奨学金の創設を
■ オオキンケイギクの駆除対策の必要性は

給付型奨学金の創設を

問

人口減対策として、村長が以前、奨学金を借りて高校・大学等を卒業して地元に帰り就職した場合は、奨学金の償還を免除するといったことも考える必要があるのではないかと言われたことを記憶しているが、私もぜひ、そのような文言を山江村奨学金貸付条例に入れていただきたいと考えているが、村長の考えを聞かせていただきたい。

答 村長

奨学金基金の中から高校生1万円、大学生3万円、月貸し付けをしているが、先般の議案審議の中で、この奨学金制度で卒業されて、それぞれの希望のところに就職されるわけであるが私も将来的には山江村に帰ってきて定住したらその奨学金は返還しなくてもいいようにできないかと言ったが、若者の定住は、30人から40人山江中学校、高校を卒業して山江に帰ってくるのは3、4人ですのでそういう状況の中に、やはり一度外に都会に出られた方が、しっかり山江に帰ってきてもらうためのひとつの呼び水とし、その場合は奨学金の返還は要らないというような制度について、前向きに検討していきたいと思っている。

オオキンケイギクの駆除対策の必要性は

問

特定外来生物オオキンケイギクは北米原産で強健で、冬、地面を覆う効果が高く、花枯れ姿が汚くないという理由で、緑化のために道路の法面などに利用されたり、ポット苗としても生産流通されたということ。しかし、あまりの強靱さのため一度定着すると在来の野草を駆逐し、ほとりの景観を一変させてしまう性質を持っているということで、環境省で特定外来生物に指定されたが、駆除の必要性は。

答 健康福祉課長

その繁殖力の強さから、在来の生態系に非常に悪影響を及ぼすということで、法律によって禁止をされているが、村民の皆様にも正しい駆除の仕方など、村内の回覧、広報やまえ、山江村ケーブルテレビ、村のホームページなどを活用しながら地域の除草作業の活動の機会も活用して、今後も引き続き区長、区長代理を通じて駆除のお願いをしていく。

特定外来生物オオキンケイギク

※他に「アンケートの回収率について」「国営川辺川総合土地改良事業負担金の徴収状況について」質した。

北田　愛介 議員

■ 畜産振興と農家の支援策は
■ 山田川上流域の防災対策について

畜産農家の現状と課題・農家支援策を伺う

問

山江村畜産会の総会資料によると畜産農家が減少しているようであるが、農家戸数と飼育頭数の推移及び現状を伺う。

答 産業振興課長

平成8年は畜産農家96戸で210頭。乳牛が11戸で236頭飼育されていたが、現在は肉用牛が30戸263頭。乳牛が3戸で39頭と高齢化や、担い手不足で減少傾向にある。

問

令和4年度と5年度の子牛の販売実績を見ると出荷頭数は、令和5年度が1頭多いが販売総額では1千万円近く減少している。価格の推移を伺う。

答 産業振興課長

山江村の子牛価格の平均は、令和3年度75万493円。令和4年度62万1803円。令和5年度56万2474円。令和6年度1月、3月、5月の平均が53万5千円と下がっている。平成28年は85万5817円であった。

問

畜産農協の合併で2年後には家畜市場が錦町から大津町に移る。輸送費の負担増や子牛の運搬ストレスによる価格への影響が心配されるが、畜産農家の支援策をどのように考えているか。

答 産業振興課長

現在も各種の支援を行っている。山江村畜産会で畜産業界全体として要望を上げて頂きたい。支援策については、随時考えている。

山田川上流域の倒木と施設の復旧は

山田川上流域の尾崎地区には多くの倒木が河川に横たわっている。山林所有者では多額の費用がかかり撤去出来ない。どのように対応したのか。

答 建設課長

令和5年度に採石場上流付近の倒木は緊急性があり村で対応した。河川内の倒木処理には多額の経費が見込まれるので、引き続き調査等を行いながら、国・県の補助制度や該当する地方債などを活用する対応策を検討していく。

問

尾崎地区には令和2年7月豪雨で被災した堰堤などがある。復旧状況を伺う。

答 産業振興課長

熊本県に確認したところ昭和27年に谷止工を建設している。現在、地目変更事務や現状の県道に沿った工法を検討中との回答であった。早期復旧に向けた要望を引き続き行う。

山田川上流域の倒木

QRコードで各議員の一般質問の動画がご覧になれます。

白川　俊博 議員

■ 特産“やまえ栗”の振興
■ 学校給食の地産地消
■ 水道施設の現状

順調に生育中の”やまえ栗”

“やまえ栗”品質・生産量向上へ肥料助成など補助の拡大は

問 栽培面積、出荷量の近年の推移は。

答 産業振興課長 面積は約120ha。近年は120t程度で推移、R5は75t。

問 栗栽培への補助の現状は。

答 産業振興課長 村全体の補助額は、苗木購入に153万円、肥料購入に135万円、有害鳥獣対策に55万円、剪定作業等補助に196万円。次年度はドローン防除補助も検討。

問 今年度実施する、栗生産実態調査の内容は。

答 産業振興課長 栗生産向上推進員と役場担当係で樹園地の現状を把握しデータ化、調査は栗生産の時期が終わった後を考えている。

問 品質生産量向上への補助拡大の検討は。

答 産業振興課長 栗生産向上推進委員会で意見等を伺い補助見直し拡大を検討する。

答 村長 現在栗の生産高は1億円程度、GI登録取得を機に品質向上と増産、更に雇用拡大など活性化へと繋げ、栗振興への戦略を取り組んで行く。

米飯食材は山江産、地元の農家などから直接仕入れの考えは

問 学校給食の主食である米飯、近年の米の使用量と仕入れ先は。

答 教育課長 R元：3915kg、R2：4160kg、R3：4370kg、R4：4210kg、R5：4090kg、仕入れ先はR元からR4までは村内業者、R5は村外業者。

問 米の仕入れ先の選定方法は。

答 教育課長 H28～30年度は学校給食コーディネーターにより村内農家から、R元年度からは村内業者と村外業者から見積り入札により選定。

問 物産館や法人・農家から仕入れの考えはないか。

答 教育課長 見積り入札も山江産米に限定している、直接仕入れは考えていない。

山田小1年生の親子給食

水道施設の耐震化、整備改修は

問 村内の水道施設の耐震化率は。

答 建設課長 H18～23に山田地区を実施、万江地区は今後、村内の耐震化率は約82％。

問 年数経過の施設や設備の耐震化等改修計画は。

答 建設課長 災害復旧を優先して事業を進めてきた、今後財政計画を立て年次計画による耐震化を進めて、老朽化対策は長寿命化計画を策定し、財政状況も踏まえ整備改修を検討していく。

第1水源地（万江中鶴）

立道　徹 議員

■ 坂本人吉線（落石）について
■ 丸岡公園農村広場の利活用について

坂本人吉線の落石防護対策は

問

坂本人吉線足算瀬地区にて、令和2年の豪雨災害関連の法面工事が完了したが夜間に鹿・猪が施工区域外を通り、道路へ落石があり、通行車両に影響が起きる危険性がある。このことは、地元の方々からの要望である。今後、落石防止のために落石防護柵等の対策をすべきではないか。

足算瀬地区（落石状況）

答 建設課長

県でも道路パトロール等において、確認をしており、今後も道路パトロールによる日々の監視を継続し、調査や応急対策等も含めて、今後の対応を検討する。県の動向を注視しながら、要望をしていく。

丸岡の農村広場をサッカー専用にできないか

問

現在、サッカーの練習・試合等で地元、地区外から使用されている。他の町村の真似をするのではなく、この山江村の丸岡公園は、人吉インターから、車で10分ほどの交通の便もいい場所で、ナイター設備も完備されます。今後、この広場をサッカー場として、改築、改造される考えはないか。

答 企画調整課長

直ちに、サッカー場としての改築、改造ができない。村内イベントの臨時駐車場として利用している。総合公園検討委員会の中でロアッソジュニアの合宿誘致等様々な構想を描きながら、検討をしていく。

答 村長

将来的に、サッカーチームが合宿に来て、山江村のスポーツ振興、宿泊、温泉センターに泊まることは、経済振興にもつながっていくことでもあると考えている。専門家、サッカーの関係者の方に見てもらい、どのような活用をすればよいか、視野に入れて取り組んでみたいと思っている。

※他に「人口減少の抑制を目指す子ども関連の施策について」質した。

丸岡公園農村広場

QRコードで各議員の一般質問の動画がご覧になれます。

横谷　巡　議員

■ 消滅から持続可能な村へ 活路を見出す施策を！

移住定住促進の住宅環境整備の考えは

問　移住定住の促進を図る環境整備を行い、若者世代の転入を呼び込む社会増により、活力ある持続可能な村づくりとする考えはないか。

答　村長　限られた土地の有効活用や空き家解消など移住定住の促進に努めている。特に若者世代を呼び込むためには魅力的な村になることが求められている。農村RMO事業、要するに山江の農村をどういう形で運営していくのか多くの意見を聞きながら、持続可能な村づくりに努めてまいりたい。

子育て支援「応援アプリ」の導入は

問　不安や疑問が多い育児について、気軽に相談ができる身近な子育て応援アプリを導入し、情報発信することはできないか。

答　健康福祉課長　妊娠の経過や子供の成長記録など母子健康手帳の内容を登録できる機能が搭載されたアプリで、先駆的に導入している自治体の事例を注視し、前向きに検討したい。

特色ある教育推進と発信について

問　進化を遂げる多様なICT教育、やる気学びの学力向上、夢溢れる学校図書館、未来を育む豊かな自然体験学習などの実践による学習成果を、本村の特色ある教育を共有し発信することにより、教育の村とする考えはないか。

答　教育長　各学校ではICT教育をはじめ、様々な分野でホームページ開設やSNS配信で学習や活動の様子を創意工夫しながら配信している。今後、特色ある教育の充実に努め、山江村の教育の素晴らしさをアピールしていきたい。

万江小学校のあり方の真剣な協議を

問　万江小学校の将来を見据え、地域住民の声をしっかりと聞き、存続か、一定の集団規模を確保し教育効果を高めていくのか、検討する時期に来ているように感じるが見解を伺う。

答　教育長　小規模校であるがゆえにその良さを十分に発揮し、一人一人を大切にした知・徳・体、調和のとれた特色ある教育活動が行われている。多種多様な現状を踏まえながら、まずは今年度の総合教育会議で、本村の学校のあり方について協議検討をしていきたい。

※他に「行政施策について」質した。

山江村議会だより「まるおか」第93号
発行：山江村議会
編集：広報編集特別委員会

山江村域内電話 ☎23-3401
熊本県球磨郡山江村大字山田甲1356-1
☎(0966)23-3401 FAX(0966)24-5669

議員活動の一コマ

令和７年度主軸事業要望及び行政視察研修

令和６年７月２４日から２６日にかけて、「令和７年度主軸事業要望」として、衆・参両議院の国会議員へ要望活動を行い、その後山形県西川町にて「子ども・子育て政策等」、福島県猪苗代町にて「農村型地域運営組織（農村RMO）」とそれぞれ行政視察研修を実施しました。

要望項目

1. 介護保険の公費負担支援について
2. 企業誘致の推進について
3. 教育支援活動等に対する予算及び支援員の確保について
4. 道路事業の整備促進について
5. 橋梁の長寿命化修繕について
6. 国土強靭化の推進等について
7. 国民健康保険税の連帯納税義務について
8. 球磨川北部地域（国営川辺川土地改良事業区域等）の基盤整備の推進について
9. 農業農村整備事業等の促進について
10. 森林整備事業の拡充強化について
11. 野生鳥獣類被害対策について
12. 家畜伝染病防疫体制整備について
13. 地域資源を活用した地域活性化に対する支援について
14. 森林整備を一層推進するための森林環境譲与税の譲与基準の見直しについて
15. 民生委員・児童委員活動の環境整備と活動費等の予算について

研修風景

山形県西川町

福島県猪苗代町

だんだんなぁ

残暑お見舞い申し上げます。

毎日暑い日が続いておりますがいかがお過ごしでしょうか。

さて、田んぼの稲もだいぶ大きくなり緑の絨毯が広がっておりますが、特に夜になると鹿や猪たちが我が物顔で悠々と道路を歩き、電柵が設置された田んぼの中に入り、朝方には猿の親子たちが群れを成して、民家の青い柿を食べている姿を見かけます。この様な現状から農家の方々の苦痛の表情が伺えます。この問題は時間をかけてもどうしても解決しなければなりません。

毎年夏は暑いものですが、今年は特別暑いとの事。加えて新型コロナウイルス感染症も増加傾向にありますので、体調管理には充分に注意されます様お願い致します。健康で健やかに、みんなでこの暑さを乗り切って参りましょう。

最後に、私たち広報委員は読みやすさと親しみをもった広報誌にして参りたいと思っております。ご意見、ご要望などございましたらどうぞご遠慮なくご一報頂けますと幸いです。

（文　責　本田　りか）

【山江村議会広報編集特別委員会】
委員長／本田　りか
委　員／白川　俊博
久保山　直巳
北田　愛介